

大学1年生の発達課題への対処と自我同一性感覚

——半構造化面接による検討——

辻 井 正 次

Coping with Developmental Tasks and Sense of Ego-Identity in College Freshmen.

——Consideration by Semi-Structured
Interview Methods——

Masatsugu TSUJII

Abstract

This paper explores the phenomenological and psychodynamic differences between university freshmen who score at the high and low extremes of the Ego Identity scale (EIS), which made along to E. H. Erikson's concept of Ego Identity. 15 freshmen (8 women and 7 men) were interviewed to assess how they cope with various developmental tasks, such as vocational orientation, sex-role preference, belief on life-style, friendship, academic achievement, other activities on college life, et al.. The result show that there were differences between high-EIS group and low-EIS group, and also sex differences within both groups were seen. High-EIS male students coped actively and competitively, and had high self-esteem, on the contrary, low-EIS male students coped passively and anxiously, who had low self-esteem and conflict on masculinity. In female high-EIS students coped actively, had wishes to have own profession and felt troublesome on femininity, to the contrary, female low-EIS students coped passively but stably. Contrasted with male students, EIS score of female students are seemed to show different ways of women's life styles.

Received Apr. 30, 1994.

1. 問 題 と 目 的

Erikson, E. H. (1959) は、精神分析的自我心理学の立場からパーソナリティの生涯にわたる発達を個体発達分化図式として描き、各々の時期に達成すべき心理社会的な危機と発達課題を述べている。そのなかの青年期における発達課題を「自我同一性(Ego-identity) 対同一性拡散(Identity diffusion)」とした。自我同一性は、児童期までのさまざまな同一化を統合した自分について過去—現在—未来へと続く時間的一貫性と、自他からみた自己像の一貫性の双方から特徴づけられる。「自分とは何者であるか」、あるいは「自分はどこから来てどこへ行くのか」といった青年の自己存在証明ないし自己定義と関連した概念である。Erikson の自我同一性概念は、青年を理解していく上で極めて有用な概念であり、これまで様々な実証的研究が行われてきた。とりわけ、自我同一性研究では鑑・山本・宮下(1984)などが展望しているように、大きく質問紙によるアプローチと、Marcia, J. E. (1966) 以来の半構造化面接による同一性ステイタスによるアプローチ(日本では無藤(1979)をはじめとした諸研究がある)との2つアプローチがあり、現在、後者のアプローチが研究の主流になってきている。同一性ステイタス研究では、青年を危機(crisis)と自己投入(commitment)の有無から4つのステイタス(同一性達成、モラトリアム、早期達成、同一性拡散)に分類し、各々のステイタスにある青年の特性を明らかにしてきた。高橋(1988)は Marcia の半構造化した同一性ステイタス面接の妥当性を Rasmussen (1964) の質問紙との関連から検討し、両者の間での高い併存的妥当性を明らかにしている。しかし、同一性ステイタス研究においては、各ステイタスに分類された個人の特性の検討という形での研究が中心となっており、同一性ステイタス研究の在り方自体が、同一性ステイタスの4つのステイタスの存在自体を先験的なものとするような問題点を内包している。さらに、高橋(1984)、Cote & Levine (1987)なども述べているように同一性ステイタスの設定自体にもいくつかの問題点があり、現実の日本の青年を捉える枠組みとして全く十分なものとはいえない。青年自身が感じる自我同一性感覚は実際の青年の存在様式とどのように結びついているのだろうか。そして、自我同一性感覚が確かな、あるいは希薄な青年とは、いかなる存在様式であり、何をし、何を感じている青年であろうか。

自我同一性研究において、自我同一性感覚と実際の生活の次元での在り方、とりわけ、青年を捉えるための重要な枠組みの1つである、青年期の発達課題(developmental task)への対処の仕方との関連は、Marcia らの同一性ステイタス研究の流れ以外では、あまり検討されてこなかった。同一性ステイタスの場合にしても危機と自己投入の2つの視点のみからみた対処様式であり、より広い立場での検討を行なっているのは杉原(1988)の早期完了型の事例的検討などであり、また、それ以外の研究の流れでも、Josselson et al. (1977) の心理的成熟度への現象学的な接近や、鈴木(1985, 1986, 1987)の発達課題への取り組みと非行

との関連についての研究、松本・村上（1985）や恒吉・前田（1990）の女子青年の性同一性についての研究など、いまだ数少ない。Marciaの同一性ステータスの危機と自己投入は極めて優れた視点ではあるが、自我同一性感覚の構成概念を考えた場合に、Coteら（1987）も同一性ステータスが必ずしもEriksonのいう自我同一性を厳密に測定しきれてはいないことを示しており、それらの2つの視点だけが対処様式として考えられるわけではないことは明らかである。自我同一性感覚の構成概念を（操作的であれ）定義した上で、構成概念と密接に関わる対処様式をあげる必要があると考えられる。Eriksonのいう危機が個人の必理性的な発達のみによるのではなく、社会と個人との絡み合いのなかで起こることを考えあわせると、自我同一性は青年の青年期の発達課題への対処の仕方との関連のなかで本来の自我心理学的な意味合いを検討することができると考えられる。

人間の生涯発達のなかでの各々の発達段階で成し遂げなくてはならない課題を発達課題として概念化したのは、Havighurst, R. J. (1953) である。彼によれば「発達課題とは人の生涯のそれぞれの時期に生ずる課題で、それを達成すれば、その人は幸福になり、次の発達段階の課題の達成も容易になるが、失敗した場合は、その人は不幸になり、社会から承認されず、次の発達段階の課題をなしとげるのも困難となる課題」であるとして、青年期についても9項目の発達課題をあげている。彼はEriksonと似た観点ではあるが、より社会的な教育の観点を重視し、発達課題を個人の要求と社会の要求の中間にくるものと位置付け、教育可能なものとしている。また、Newman, & Newnan. (1984) はEriksonの発達段階を基にしながら、発達課題としてその達成が現在の欧米の文化のなかで各段階の心理的社会的成長にとって重要と思われる一般的な領域をあげ、青年期前期の課題として、身体的成熟、形式的操作、情動の発達、仲間集団における成員性、異性関係また青年期後期の課題として両親からの自立、性役割同一性、道徳性の内在化、職業選択をあげている。一方、同一性ステータス研究のなかで、青年にとっての重要な領域を設定するうえで、Marcia (1966) が職業、政治、宗教をあげてから、価値観(無藤, 1979など)、婚前交渉や性役割(Hodgson & Fisher, 1979; Schiedel & Marcia, 1985 など)、対人関係スタイル(Donovan, J. M., 1975; Theobucke & Grotevant, 1982) 等へと領域が広がっている。また、Rogow et al. (1983) や Kroger, J. (1986) は付加的な領域として対人関係や道徳性、余暇の追求等を加えている。さらに、Orlofsky et al. (1973) や高橋 (1988) ではEriksonの概念構成をもとに親密性地位を求め、対人関係領域についての検討をおこなっている。そして、それらの重要な領域への危機・積極的関与の在り方での性差が注目を浴びている(高橋, 1988; Archer, S. L., 1989)。

本研究の目的としては、第1に自我同一性感覚を自我同一性感覚尺度に(EIS: Ego Identity Scale)によって測定し、自我同一性感覚の高い者と低い者を抽出し、その差が実際の発達課題への対処にどのように反映されるかを(半構造化面接により)対処様式の差異についての事例的検討から明らかにすることを試みたい。また、第2に半構造化面接により発達課題へ

の対処における性差についても事例的検討から明らかにしたい。本研究においては、同一性ステイタスのような、あらかじめある枠組みから描くのではなく、より現象記述的な立場で、プライバシーに触れない範囲内で、「生の」姿を描出することを試みる。

2. 方 法

1) 被面接対象者の抽出：

自我同一性感覚の高さが発達課題への対処にどのような影響を与えているかを検討するために、大学生のなかで自我同一性感覚の高い者と低い者とを抽出するために質問紙調査をおこなった。

① 被験者：A県内の5つの大学の大学1年生667名（男性342名、女性325名）。

② 自我同一性感覚尺度：

辻井（1989）の自我同一性感覚尺度（EIS；Ego-Identity Scale）を用いた。この尺度は自我同一性感覚に焦点をあてて尺度作成を行なっている、Dignan, M. h. (1965) の7つの次元（自己感覚、独自性、自己受容、役割期待、安定性、目標指向性、対人関係）を基にしながら、青年期の発達課題（職業、価値、性役割、身性・性的条達の受容、学業、対人学業、対人関係）の対処の際に経験する感覚を、Dignan の7つの次元につき20項目ずつ、計140項目を作成し、予備調査の結果から自我同一性感覚を4つの下位概念（「自己の一貫性」、「自己肯定感」、「目標指向性」、「独自性」）から操作的に定義した。全140項目について、5名の心理臨床家に内容的妥当性の検討を依頼し、5名中4名が妥当とした97項目を基にして、本調査を行い、その因子分析結果と内容的妥当性から、「自己の一貫性」18項目、「目標指向性」16項目、「自己肯定感」12項目、「独自性」11項目、計57項目で自我同一性尺度（EIS）を作成した。項目内容を付表－1に示す。「自己の一貫性」とは、他者の見た自己と自分の思う自己との一貫性と、情緒的にも、またどんな状況下でも一貫した自分であるという安定し統合された感覚である。また、「自己肯定感」とは、自己に対する信頼感や満足感、自己受容、あるいは良好な対人関係をもって他者に受け入れられているという自分に対するポジティブな感覚である。さらに、「目標指向性」とは、自分の将来への方向性がわかり、そうした目標へ意欲的に向かっていくことで職業や生き方とも結びついた感覚である。最後に、「独自性」とは、他者の前にあっても他者の意図に惑わされずに、自分の意志（主体性）を持っているという感覚である。

EIS の信頼性としては Cronbach の α 係数が4つの下位尺度とも十分高い値（.81～.91）を示し、下位尺度ごとの合成得点と各項目との相関も全て有意（1%水準）であり、高い内的整合性を示した。また、砂田（1979）の同一性混乱尺度（IDS）と全て有意な（0.1%水準）負の相関を示し、十分な併存的妥当性を示した。また、自我同一性との間に負の連関が予想される不安〔特性不安；清水・今栄（1981）〕と予想どおり全て有意な（0.1%水準）負の相関を示し、さらに正の連関の予想される Frankl. V の「意味への意志」を測定する PIL の日本語版〔佐藤（1975）〕とも予想どおり全て有意な（0.1%水準）正の相関を示した EIS の下位尺度相互の内部相関との比較より、PIL、不安は EIS との関連について予想通りの結果となっており、十分な構成概念妥当性を示した。さらに、EIS の再検査信頼性については、被験者のなかの35名に4週間をおいての再検査を実施し、 $r = .75 \sim .92$ と下位尺度間の相互相関よりもかなり高い値を示し、被験者が少なさの問題はあるものの一定の再検査信頼性を示した。表－1に被験者全体の各下位尺度の平均値・標準偏差を示す。

③ 被面接者の抽出の手続き：

表-1 E I Sの下位尺度の平均値・標準偏差

	全 体				男 子				女 子			
	N	MEAN	SD	α	N	MEAN	SD	α	N	MEAN	SD	α
一貫性	665	63.07	10.96	84	340	64.39	10.64	83	325	61.70	11.13	85
指向性	666	53.02	13.14	91	341	54.08	13.16	91	325	51.91	13.04	91
肯定感	667	40.64	7.80	81	342	40.81	7.86	81	325	40.46	7.76	82
独自性	666	37.91	6.95	81	342	39.40	6.78	80	324	36.34	6.78	80

被験者のうち、この後の面接調査へ参加してもよい意思表示をした者のなかで、EISの得点の高い者、低い者を選びだした。EISの4つの下位尺度ごとに、33パーセンタイルと67パーセンタイルの値を基準にして、33パーセンタイル以下の得点の者に対して、「1」を、33パーセンタイルより大きく67パーセンタイルより小さい得点の者に対して、「2」を、さらに、67パーセンタイル以上の得点の者に対して、「3」を与え、4つの下位尺度のプロフィールから、高得点者、低得点者の典型例を抽出するようにした。そして、4つの下位尺度ともに高い得点（「3」）をあげている高得点者（H群）、同様に4つの下位尺度ともに低い得点（「1」）をあげている低得点者（L群）とを典型例とした。しかし、全くの典型例の者の人数が少なかったため、典型例により近い者を選んだ。男女それぞれのH群、L群を4名ずつ、計16名を抽出する予定であったが、男性のH群とL群が3名ずつしか参加できなかったため、女性のL群を5名にして、計15名を面接対象とした。

2) 面接調査の実施：

- ① 被面接者：1988年9月にEISを評定した5つの大学のなかの1つのX大学の文科系専攻予定の大学1年生151名（男子81名、女子70名）の中で、EISの4つの下位尺度ともに高得点の者7名（男3名、女子4名）、低得点の者8名（男子3名、女子5名）の計15名を対象にした。被面接者の得点プロフィールを表-2に示す。
- ② 質問内容：同一性ステイタス研究での重要とされる諸領域（職業、価値観、対人関係など）や関連の研究（Josselson et al., 1977a, b など）、従来の精神分析学的青年期発達理論の枠組に立つ諸研究（Blos, P., 1962; 前田, 1976 など）、あるいは発達課題に関する Havighurst や Newman 夫妻の研究などを参考にして、進路選択、職業志向、学業への取り組み、生き方（価値観）、性役割、身体（性）受容、同性の友人関係、異性の友人関係、家族との関係、全体的自己像を自我同一性形成に重要な領域として採用し、“現在どう考えているか”あるいは“現在どのように取り組んでいるか”、“そういった取り組み（考え）に至った過程（理由）”、“現在のそうした在り方について葛藤はあるか”、“あなたの取り組みに対する周囲（友人、

表－2 被験者の得点プロフィールと素点

		被験者	プロフィール	一貫性	指向性	肯定感	独自性
男 子	H I G H	A	3333	77	73	50	43
		B	3333	74	67	46	48
		C	3233	72	57	47	49
	L O W	D	1111	43	25	30	26
		E	1221	37	58	39	30
		F	1212	52	47	31	38
女 子	H I G H	G	3333	79	66	59	46
		H	3233	72	56	46	42
		I	2332	69	72	54	39
		J	3332	72	77	52	36
	L O W	K	1111	43	33	34	31
		L	1111	52	29	35	30
		M	1111	56	35	36	27
		N	1111	55	34	32	33
		O	1121	49	29	37	30

両親等）の意見”について、あらかじめ一定の枠組みを設定した。具体的な質問項目は無藤（1979）や Josselson et al. (1977a, b)などを参考にした。質問内容を表－3に示す。

③ 実施状況：大学の実験室において、筆者自身が面接を行なった。面接構造は1対1の対面法で行い、基本的には質問内容に沿いながらも、被面接者が自分の考えを明確にできるよう、援助的な立場で応答した。面接全体を通して被面接者のパーソナリティ像を明らかにできるように、実際の心理臨床場面における受理面接に近い態度で尋ねた。面接においては、面接の概要と目的について説明し、秘密の厳守、答えられない内容については答えなくてもよいこと、被面接者のプライバシーを守るようにした上で研究目的にそって面接内容の一部を研究として発表する可能性があることを伝え、さらに、被面接者の了承を得た後に、テープ・レコーダーでの録音をした。所要時間は一人あたり約1時間半であった。

④ 実施日程：1988年12月から1989年1月。

3. 結果と考察

1) 自我同一性感覚の高い男子の発達課題への対処様式について：

EISの高得点者3名の面接内容を表－4に示す。面接内容については、プライバシーを守るために、内容を損なわない程度の改変を加えてある部分もある。

自我同一性感覚の高い者のうち、2名が下宿生、1名が自宅生であった。また、2名が現

表一 3 半構造化面接の面接内容

<p>はじめに</p> <p>☆自己紹介</p> <p>☆面接の概要の説明</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 答えられないことには「答えられない」と言う 2 この面接は研究のためのみに行なう 3 秘密は必ず守る 4 録音をするが研究者以外はきかない説明 5 これから、かなりいろいろなことを質問しますので、答えられる範囲で答えて頂きたいと思います。 <p>(1) 導入</p> <ol style="list-style-type: none"> ①氏名 ②生年月日（年齢） ③出身（出身校） ④浪人経験 ⑤自宅（同居人）or 下宿 <p>(2) 入学</p> <ol style="list-style-type: none"> ①現在の学部は？ ②何故、この学部を受けたのか？ ③受験校・学部の選択（決定）過程、誰の意志決定か ④他の進路は考えなかったか、考えてないか（相談相手） ⑤親の希望は？ ⑥周囲（友人・先生）の意見 ⑦入学してみて、満足度 <p>(3) 職業（進路）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①将来の進路・職業として何を考えていますか？ ②その理由 ③その選択（決定）過程、誰の意志か ④他の進路は考えないか、考えなかったか（相談相手） ⑤親の希望は ⑥周囲の意見 ⑦その職業につく可能性、なれた際の満足度 <p>(4) 学業へのとりくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①現在のとりくみ状況 ②その理由 ③そうなった過程 ④葛藤はないか（相談相手） ⑤親の希望 ⑥周囲の意見 ⑦満足度 <p>(5) 学業以外のサークル・趣味・アルバイトへのとりくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①現在のとりくみ状況 ②その理由 ③そうなった過程 ④葛藤はないか（相談相手） ⑤親の希望 ⑥周囲の意見 ⑦満足度 <p>(6) 生き方（価値観）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①どんな生き方をしてみたい or 尊敬する人 ②どんなところ（理由） ③こういうところは絶対ゆずれない自分なりの価値 ④それに至った過程 ⑤葛藤はないか（相談相手） ⑥親の希望 ⑦周囲の意見 ⑧満足度 	<p>(7) 性役割</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分を男らしい（女らしい）と思うか ②その理由 ③そういうふうになるようになった過程 ④葛藤はないか（男（女）でいたいのか） （相談相手） （性役割） ⑤親の意見 ⑥周囲の意見 ⑦自分に対する満足度 <p>(8) 身体（性）受容</p> <ol style="list-style-type: none"> ①容貌について <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の意見 ・それはずっとそうか（過程） ・満足度 ②自分の身体がしっくりくるか、なじんでいるか（異和感） <ul style="list-style-type: none"> ・それはずっとそうか（過程） ③性的問題 <ul style="list-style-type: none"> ・世間の性風俗についてどう思うか ・どのくらい関心があるか ・[男] → 女性への性的衝動の強さ ・[女] → 自分が性的な対象になることをどう思うか ・性体験の有無 <p>(9) 同性の友人関係</p> <ol style="list-style-type: none"> ①友人は多い方ですか ②特に親しい友人はいるか ③どんな相手か ④どういうつきあい方か ⑤どんなことまで自己開示できるか、できないこと ⑥葛藤（困ること、苦手な相手との対応、etc.） ⑦依存 <p>(10) 異性の友人関係</p> <ol style="list-style-type: none"> ①友人はいるか ②特につきあっている相手はいるか ③どんな人か ④どういうつきあい方か ⑤どんなことまで自己開示できるか ⑥葛藤（困ること、苦手な相手との対応、etc.） ⑦依存 <p>(11) 家族</p> <ol style="list-style-type: none"> ①何人家族か ②父親はどんな人か ③父親は好きか ④父親とのつきあい方 ⑤父親への甘え ⑥母親はどんな人か ⑦母親は好きか ⑧母親とのつきあい方 ⑨母親への甘え ⑩その他のメンバーについて ⑪どういう家族か ⑫いて安心できるか（サポーターブか） ⑬葛藤 <p>(12)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分自身を自己分析してどういう人間だと思うか ②子どもの頃→中学生時代→高校生時代→大学時代（現在） ③どうなりたいか（理想像） ④その他
---	---

表—4

被験者 プロフィール	A 3333	B 3333	C 3333
学部	経 済	法 学	教 育
自宅／下宿	下 宿	下 宿	自 宅
現役／浪人	現 役	現 役	浪 人
進路選択	理数科にいて理系に進むつもりだった。理学部希望だった。高3の夏に面白くないと感じて他のことを探していた。経済に進んだのは自分の好きな科目が受験にむいていたのと、ソ連の経済に興味を持ったから。(親)大学は自分で決めると言っていたので特に強い反対もなかった。	小・中・高と社会が好きで、特に法律関係に興味を持っていたし将来の希望として中央の方に出て公務員としてやっていくたかった。(他の進路)考えなかった。高1で決めた。(親)反対しなかった。	心理学をやりたいと浪人中から思い始めた。現役の時は経済を受けて受かると思っていたのに落ちショックを受けて、これは経済に行くなということだと思った。自分のせいだと考えなくなかった。もともと人と接するのがいいので。(相談)自分で決め、親にはこういうふうにするから、としか言っていない。(親)2浪だけはやめてくれと。
職業志向	地元の子会社のある企業に就職してと。深く考えたことはない。どうにかなると思っている。(親)長男なので、地元就職してほしいと思っていると思う。	僕としては東京の官庁へ行きたい。国政に携わりたいことと何となく事務職にあこがれた。漠然としている。(親)長男なので地元に戻ってきてほしいと希望している。親のことを考えると妥協せざるをえないところも。(相談)しない。	民間の企業に入るということくらいしか考えていない。努力して見返りのあるところに行きたい。親が中小企業で一生懸命やっても給料が少ないので。まだ、現実問題としてきていないので真剣に考えたことはなかった。
学業へのとりくみ	高校では真面目にやっていたが合格したので、それ以来まったく勉強はしなきゃと思う。	元々文学が好きなので漱石を読み出した。授業は前期は全部出たし、後期も一つを除いてみんな出ている。(葛藤)別にない。ノート作成というか、単位をとるために、出ない講義で話されることがテストに出たら出る。	心理学はちゃんと出ているが、興味のないことは切っている。大学は好きなことをやるころなので、したくないことは中途半端にしないで切っている。(親)高3の時は毎日勉強しろと言ったが大学入ってからは関係ない。
サークル等へのとりくみ	運動部、週4回。大学生活の人間関係が部活関係で構成され部活なしでは学校生活は考えられないほどの深い関わり。先輩は1年違うだけで、人生経験が違う。(困ったこと)団結できずにいくつかのグループに別れたり、人数が減っていく。ひきとめるようにしているのだが。つりが趣味で高校まではやりまくっていた。	サークル入ったが、今は全く行っていない。大学祭実行委員会に所属、それには参加している。来年に向けて頑張りたい。(魅力)後輩との接し方が重要。大学祭を通して活動力を養いたい。(困ったこと)企画がうまくいくか不安はある。家庭教師を親戚の家でやっている。	サークルは今は研究会だけ。バイトは毎日やっている感じ。サークルはけっこう真剣にやっている。人間に興味がある。(親)運動系のものにも入ったらと言っていた。アルバイトは車の借金を返すためだが、ただお金の為というわけではない。

表-4 (続き)

価値観	自分のしたいと思ったことはやる。きちっとしたい。(生き方を考えたこと)あまりない。(親)見習って真面目に生きたい。	プライドは大切にしたい。人と競争する場合にはやはり勝ちたい。意識してそうしてきたわけではない。(今の生き方)とりたてて変えようとは思わない。	埋もれるのが嫌だ。ある程度人に認められる人間になりたい。慕われるような人になりたい。自分を自信をもって主張できるような認められる人間になりたいというのは前からあった。(それが揺らいだ時)自分のせいにはしない。自己弁護してしまう。今ある程度評価はされていると思う。
男らしさ	男らしいと思う。それを表せるよう心がけている。(性役割)根本的には同じだが、最終的には大きな判断は男がすべきだと思う。(家事)僕自身は女性に家にいてほしい。	あまり思わない。決断力に欠ける。優柔不断というか慎重というか。(女だったらいいの)と思ったこと)全くありません。(親)はっきりしないので少し男らしさに欠けると思っているのでは。(相談)人に弱いところを見せたくない。	(男らしい)時と場合による。何かあっても自分のせいにしたがらないのは男らしくないと思う。体型的に鍛えたいと思う。(女だったら)男ったことない。(親)取り立てて男らしいとは思っていないと思う。男がお金をかせいで女は家庭。
身体(性)受容	(容姿)深く考えたこともないし満足している。(身体)遅くなりたくて高校時代アスレチックジムに通ったことがあるが、悩みではない。(今)ほぼイメージ通りで満足している。(性衝動)好きな子については押さえられないことも。お互い好きならいいのではと思う。	(容姿)これで仕方がないんじゃないかと思う。(身体)全くありません。眼鏡はあまりかっこ良く見えないと思った。(性的関心)強い)それはない。	(容姿)全然男らしくない。自信がないとは思わないが、自慢できるとも思わない。(体への違和感)ない。(性)昔からオープンだから内にたまえることはない。
同性の友人との関係	多い。(親しい友人)部活関係で3人ぐらい。性格的にはリーダーシップをとる方。(苦手)なよなよしたのは嫌い。	クラスの友達が多く、あとは実行委員の友達。(親しい友人)中学の頃からの友達。拘るところを除いては自分との衝突がない、気楽にいられる。自分の弱いところは見せたくない。(困ったこと)ないです。(苦手)自己主張の強い人。	前より少ない。親しいが親友とはいえない。大学は頭がいいから自分を隠す人が多い。自分は何でも話すが、大学の友人に信用されていないと感じることがある。今は盛りあげ役。(困ったこと)大学の友人は本心を出さないので不満。(苦手)無口な奴。
異性の友人との関係	高校に比べて少なくなった。(つきあっている人)高3の同じクラスの子。大学は別。甘えたいと思うこともあるが、性格的に甘えられない。隠し事はしない。(学内)皆平等。(困ること)男女のこのうわさがたつのが嫌。(苦手)神経質でキンキン大声で話す人。	全くいません。不器用なので異性に對しても苦手。きっかけがつかめない。実行委員の女の子とはよく話したが仕事のことが主。(困ったこと)せっかく機会があっても話せなくて残念だと思うことはある。次に会うと元にもどっている。(苦手)自己主張の強い人。	他の人よりは多いかも。(つきあっている人)いない。(親しい人)お互い頼り頼られる。女の方が利害関係がないので本心が言える。(苦手)無口無表情。

表—4 (続き)

家族 父	大学の理学部を出て教師。真面目で怒りっぽい。僕も大人になったらあんなになるんじゃないかと思う。(好き)1人の大人として見てくれている点。最後に頼りにできる。	中卒で会社員。短気だが抱擁力や人を勇気づける力はある。(好き)優しきみたい。(嫌い)短気なところ。	大学卒の会社員。まじめ。人のこと考えて犠牲になっている。たばこがやめられないところが嫌。
母	中学の教師をしていたが今は塾の講師。気持ちが安まる。甘えられる。	父親よりも優しい。僕の言い分を許してくれる。(嫌い)少し干渉が多い。気を使いすぎる。	学校の先生。考え方は真面目、優等生。自分は信用されていて、あまり制約はない。
自己分析	大学1年間過ごしてきて、自分の意見を持てるようになったと思う。(変化)大人に近付いてきた。親と対等に話せるようになった。(これから)もっと人間関係を多く持って大きい人間になりたい。	目標が高くプライドに拘る。恥ずかしい目には合いたくない。人の目を気にする。人によく見られたい。(中→高→大)変わっていない。多少我慢はできるようになりたい。(これから)もっと大胆になりたい。	がんこ、自己主張が強い。謝る時にすぐ謝れるし、けっこういいと思う。(これから)人に慕われて、上に立てるような人間になりたい。
その他	几帳面なところがあって自分の領域をつくってしまう。(落ち込んだとき)自分で考えて解決する。	(不安定)人間関係が悪いと怒りっぽくなる。	けっこう冷静に、客観的に見えるようになった。プライドは高い。有能だと思いうようにしている。
印象	素直で柔軟な感じがする。あまり、いろんなことが気にならないのか。好青年。	それなりにしっかりはしているのだが、やや固い印象がした。自分の中でしっかりしたものはあっても、他人との間で打ち解けた関係は十分作られていないのか。	柔軟ではあるが、かなり自分の枠組みで特事を考えていく。行動力のありそうな子。

役合格、1名が一年の浪人を有していた。以下、3名の被面接者に共通の点について、まとめていきたい。

進路選択については、自分で決めたという感覚を強く感じていた。職業志向については、一応の職業のイメージは持っているようであった。学業については、1名が真面目にという以外は、「いい加減に」過ごしていると述べている。サークルなどの課外活動については、サークル等の活動に積極的に関与しようとしている。価値観については、競争的であり、自己主張が強い。男性性や身体に関しては、一人が優柔不断で男らしくないと思うと述べているが、特に葛藤はない。同性の友人とはある程度うまくやれているが、一人が親密になれない不満を訴えていた。異性の友人とはある程度うまくやれているが、「甘えられない」、「話せない」、「男同士より本音が言える」など不満に思っているところもある。両観像は概ね肯定的で、同一化対象となり得ている。

面接を終えての感想としては、自己分析で本人たちも述べているが、自己主張が強く、競争的であり、やや枠組の固さを感じた。自己評価がかなり高いものの、周囲の他者からみた場合に、自己愛的とも感じられるのではないかという印象の者もあった。

2) 自我同一性感覚の低い男子の発達課題への対処様式について：

EISの低得点者3名の面接内容を表一5に示す。面接内容については、プライバシーを守るために、内容を損なわない程度の改変を加えてある部分もある。

自我同一性感覚の低い者のうち、2名が自宅生、1名が下宿生であった。また、1名が現役合格、2名が一年の浪人を有していた。以下、3名の被面接者に共通の点について、まとめていきたい。

表一5

被験者 プロフィール	D 1212	E 1111	F 1221
学部	経 済	教 育	教 育
自宅/下宿	自 宅	自 宅	下 宿
現役/浪人	現 役	浪 人	浪 人
進路選択	高校時代に商社マンにあこがれた。兄貴が経済学部にいるもんですから、その影響もあったかもしれない。わりと曖昧でしたからね。あれもこれもって感じで。(親)サラリーマンになるって決めてますからね。いいんじゃないか。(入学して)思ってたより忙しいです。	本当は法学部を希望して勉強してきたが、共通一次の結果が思わしくなく、浪人しているためにどうしても大学に入らなければならぬので、一番入りやすい教育学部に。高校の時は法学部しか考えてなくて。中高の時と私立に通ったから、どうしても国立大学に行きたく、なるべくなら地元が良い。一年親に無理言ってやらしてもらったので、その分悪いかなとかいろいろ考えた。	色々考えた。(親)理系に進んで医者になんとか言われた。完全に今は親の意向とは違うところへ進んでしまった感じ。(相談)通信添削の相談コーナーがあるので積極的に投書して。
職業志向	今はちょっとあやふやです。僕がだらしなないせいもあるかもしれないけど。結構コロコロ変わったりするんですよ。天文学者とか医者とかも考えたんですけど。高校に入ってから、新聞記者とか商社マンとか公務員とか。(きっかけ)ちょっとしたことで自信なくしたり、わいたり。わりとよく気が変わるほうなんです。(親)別に。特に関係ない。	最初は教師になりたかったが、かなり難しい仕事で自分には無理かなと思うようになり、今は普通の企業に就職かなと思う。自分としても今は具体的にやりたい職業はない。(親)つづけること、大企業にはないし、仕事の内容もつらくない。	具体的に考えてないが、心理関係にすすもうかと漠然に考えている。修士ぐらいまでいけたら。4年出て会社にということもないでもない。(親)今でも銀行員になりなさいとよく言う。父が公務員なので、それ以外にしろ。今は川の流れのように、なんか流れでひっかかったらそれを見ようかと自分から求めるという感じではなく接していくものから見つけていこうという感じ。
学業への とりくみ	とくに熱心ということはないですね。今の勉強は、いらなところは、まあ通ればいいとか。勉強するところとしないところがかなり極端に分かれてきましたね。(つまらない講義)単位もとらなきゃいけないし。ほかにぶらぶらしててもしょうがないです。(周り)わりと真面目にみられてるんじゃないですかね。	今は真面目にやっている。授業はさばるのは好きでないので、真面目に授業に出て、ちゃんとノートもとっている。そうしないと不安になるので、きちんとやり、予習の必要なものは予習もしている。(周り)授業が一番出ているので、皆、真面目だと思ってるみたい。	語学は絶対身につけておきたい、一応頑張っている。ダブルスクールという形で週1、2回で。真面目に授業にでるのはあまり崩れてない気がする。(親)大学でいい成績を残して、いい企業へと言う。

表-5 (続き)

サークル等 へのとりくみ	音楽系サークルで、週に2回です。結局毎日サークル通っていますけど。かなり一生懸命やってるつもりです。(高校)やりかけるとわりと真面目になるほうですから。やってれば楽しいですし、人に遅れるのも嫌だし。(魅力)楽器ひくことに満足があるし、サークルとかはいらないと知り合いとかもできないですからね。人間関係での魅力とやってることの充実感。(困ったこと)今のところない。家庭教師週2日です。こずかい稼ぎ。	2つの研究会。先輩達の話しを聞いて、特事をしっかり考えなければと思い。家庭教師や塾。新しい考えがいろいろ聞かせてもらえるので。(困ること)慣れてしまって、新しい考えが出てこないのてつまらない。新しいものが欲しいと探すという感じで、ある程度やって慣れてくると魅力がなくなるとやめる。“教えたい”という理由の他に、お金のためというのも大きな理由。	運動部は結構充実してて、それが大学生活の満足につながっている。運動部を週4回くらいでかなりのウエートをしめている。(魅力)心身も鍛えられるし、人間関係にも学ぶべきことがある。自分のためにという感じで。(困ること)やはりグループに分かれてしまう。人間関係のことはなんとかしようとは思っていない。(親)けんかみたいなこと危ないから止めておけと言う。家庭教師一件。サークルのためのみ。
価値観	あまり考えていません。これはと言われるとちょっと思いつかない。努力して人より一歩頭に出たいなっていう、それぐらいですね。実行には移せるかどうかまだわからないですけど。(ゆらいだ)普段そういうことを意識して生活してるわけじゃないですから。今ちょっと言葉にしてみましたから。(親)なかなか考え方は手堅いなと思っていますね。やっぱり親譲りですかね。自分が言ってることとやってることがちょっと違うと思いますから。(葛藤)ちょっと悔しいことはありますがけどね、何でできないんだろうと。	社会に迷惑をかけず、真面目に。上に立つのではなく、その人の下で手助けをしたい。まとめるのが苦手で、手助けをする方が性にあってる。人がはつきりした態度をとるとひいてしまうことが多い。才能があっても人は謙虚であるべきだと思う。(親)親の態度をみてこうなってきた。父親が、あまり立派は人間ではないが、僕にとっては理想。	どちらかと平凡な幸せを求めている気がする。企業に入って、その中でレールに乗って、それなりにということ求めている。(親)やはり地道にいく感じ。だから自分にもそれを求めている。この面では親親と一致しているかもしれない。
男らしさ	今一步の夢という欲がないというのはちょっと女々しいところがある。将来の目標がコロコロ変わったりするっていうのはありますけど、短期的には自分の意見でいうのはあまり考えないほうですから。(女だったら)あったりなかったりしますけど。深く考えたことはないですね。	自分はそんな強い人間ではないし、外からいろいろ加わればすぐ不安定になるので、そういう意味では男らしくないと思う。人に左右されない強い人間になりたい。	標準いってるのではないかな。(女だったら)いろんな服があったりすると思う。ちやほやされたいとか、着飾りたいとか。(役割)男女平等といって女性が進出しすぎるのはだめになるのでは。(親)男らしくないと映っているのではないかな。迷っているのか、うじうじしている。
身体(性) 受容	体に関しては男らしいとは思わない。外見上もっと男らしいほうがいいなあ。やや不満です。わりと体とかも細いですしね。(周り)人の評判でいうのはなるべく気にしないようにしてますし。(身体)別にないです。(性的関心)普通だと思いますけど。	自信がある訳ではないが、悩むこともない。(身体の変化、違和感)高校時代、心では何か言いたいことがあっても体では言えない。初対面の人など、短時間なら良いが時間がたつと不安に。すごく孤独で。(困ったこと)中学、高校の頃はあった。	(容姿)部分部分がここがよかったらと思う。あまり満足はしてない。(中、高)もうちょっと細かったら、太かったらとか、形よかったらとか、異様にその頃は気になった。(現在)やはりある(体)特に悩みはなかった。それよりも容姿のことが気になった。(性)人よりちょっとくらい強いように思う。女性と上手く接しれないとか。この面で上手くコントロールできなかったのかもしれない。

大学1年生の発達課題への対処と自我同一性感覚

表-5 (続き)

同性の友人との関係	特に多いというわけでもない。大学、高校とか中学も。(親しい友人)何人で特定できないですけど。じゃ5人。もっと多いかもしれないし、少ないかもしれないし。どこか自分と接点のある人達。(頼れる)頼らないほうだと思っています。人に頼りっぱなしじゃダメだなと思ってますから。ある程度頼られたくないというか、そういうのはありますね。(困ること)いつでもありますし、そう特に言うほどのレベルじゃないですし。(苦手) 我の強い奴。	そう多いほうではない。3人位で行動している。自分が必要な時には自分から寄って行って、1人になりたい時は1人で行動している。他人に自分のペースを乱されたくない。(困る)べたべた、ずっと一緒にいる時。(苦手)自信のあるのを押し付ける。高圧的な人。	多い方。サークル、外国語学校。自分とは違う。結構大ざっぱであまり悩まない。まあまあ頼れるけど、彼らは年下なので。(困ったこと)人間関係がまずくなったときどうしようかと。(苦手)自分と変に考えの似た人。	
異性の友人との関係	そんなにいないですね。(つきあってる)いない。(親しい)クラブのほう。みんな同じぐらいです。(困ること)あんまりないですね。人間関係がこじれるほど深いつきあいでもないです。(意識して)男と価値観が違いますからね。(苦手)話しにくい相手。(好意を抱く女性)曖昧ですね。まあ、そのときしゃべってる人がかわいく見えますからね。普通は。誰でもそんだと思いますけど。	結構いる。少し年上の頼れる人。同学年の同じクラスの子。女の人ともうまくつきあえるようであれば将来困るし、分からないけど、将来結婚したりする時に必要だと思うから、女の人とつきあえた方がいいと思って。(困ったこと)関係が一度けんかしちゃうとうまく元に戻らないので、深くはつきあわないようにしてる。一度失敗したことがあって。(苦手)派手なタイプはいや。うまくやっていくのに、好きになる感情が多くなると、うまくいかないし。	まあいる。近いのはやはりサークルの子。(困ったこと)感情をあまり外に表してくれなくて困ったことがある。(苦手)感情を出さない人。人間関係については割り意識してよくしようと思う。嫌でも排除は自分からはしない。	
家族	父	高卒のサラリーマン。僕をさらに上回るくらい手強い人。(好き)物に対して動じないとか。(いや)もう一步踏み込めない。親にはあまり頼らないほうですね。	真面目。高卒で警察官。自分にとって大きい人に見える。	高卒で努力家。実直。もう少し干渉を、深入りをおさえてほしい。
	母	専業主婦。人の世話をやきたくなる人。自分が期待してなかったような世話をしてくれたり。	すごく甘えられる。叱られることも母の方が多い。きつい。	事務職。結構バリバリとしているキャリアウーマンタイプ。結構優しく、大好き。気回しがすごくいい。異様にやさしすぎて、少しけむたい感じ。
自己分析		ちょっと実行力がない。考えることとやってることがちょっと違ったりね。(変化)昔はもうちょっと感情をストレートに出したんですけど。わりと抑えることができるようになったというか、押えちゃうようになったというか。基本的には自分あんまり変わってないと思いますけど。(今後の希望)もうちょっとストレートに行動できるようになりたい。最近“度を越したかな”とか“ちょっとグータラになったかな”と思いますけど。	自分に肯定的になれない。このままでいくと平凡で、大きなこともできず終わりそう。(変化)一貫して大きな変化はない。(なりたい)いろいろな面ではっきりしたい。	よく人からかわってると言われるが、結構気が弱くて、思い切ったことがあまりできない。(かわってきたこと)積極的になってきた。男性らしくとか、何かをやってみようという気が出てきた。(これから)もっと自分の意見を持って信念をもてたらと思う。
その他		考えてることは結構、不安定というかいろいろ変わったりする。	神経質。最近神経質だと人と付き合えないので、おおざっぱになろうとしている。	感情は結構不安定だけど、表面には出さない。(そのとき)テレビみたり、本読んだり、じっと待って解決する。(神経質)夜、眠れないとか、場所、布団が変わると駄目とか、今は少しずつなくなったと思う。
印象		応答がはっきりしない。うまく自己表現してくれない。	ちょっとおどおどした感じのある子。何かあると困ってしまうのだろうな、と思う。	“なぜ選ばれたか”を尋ねた。とても熱心に応じてくれた。ちょっと気の弱そうなところがある。

進路選択については、成績でと述べた者が1名あったほか、いろいろと相談したりして、曖昧なうちに決めていったという感覚だったようだ。職業志向については、漠然として具体的にやりたい職業のイメージはないようであった。学業については、真面目にやらないと単位や将来が不安というところがあるようであった。サークルなどの課外活動については、サークル等の活動にも真面目に取り組んでいる。価値観については、「平凡」あるいは「下で手助け」など、競争的でなく、やや受身的なあり方であるようだ。男性性や身体に関しては、一人は「標準いつている」と述べたが、ほかは男らしくないと思っており、他者からどうみられているか気になっている。同性の友人とは、それなりにうまくやっではいるが、何かうまくいかなかったらという不安を強くもっている。異性の友人とは深くかかわってということはなく、「将来、結婚するのに必要と思うから」など、かなり不安を感じている者もいた。両親像は概ね肯定的で、同一化対象となり得ている。

面接を終えての感想としては、自己分析で本人たちも述べているが、自分に肯定的になれず、競争的になれず、やや自信のなさを感じた。自己評価が低く、安定した自分の感覚に乏しく、真面目だが神経質な印象がした。

3) 自我同一性感覚の高い女子の発達課題への対処様式について：

EIS の高得点者4名の面接内容を表一6に示す。面接内容については、プライバシーを守るために、内容を損なわない程度の改変を加えてある部分もある。

自我同一性感覚の高い者4名全て自宅生で、現役合格だった。以下、4名の被面接者に共通の点について、まとめていきたい。

進路選択については、自分でやりたい学問領域があって決めたという感覚をもっていた。一方で地元の大学に行って欲しいという親の意向に沿う選択をしている。職業志向については、一応の職業のイメージは持っているが、「迷っている」ようであった。職業が「自立」ということと強く結びついて体験されているようだった。学業については、授業についてはかなり真面目にやっているようであった。サークルなどの課外活動については、(複数の)サークル等の活動に積極的に関与しようとしている。価値観については、競争的ではないが、向上心が強く、自分をよりよくしたいという気持ちが強い。女性性については、「今度は男に生まれたい」「女らしいということを否定したい」などの葛藤を抱いている者が2名おり、男に生まれたらという空想はもっているようであった。身体に関しては、特に葛藤はないが、性的なことに対する違和感・不潔感を述べている者がいた。同性の友人とは概ねうまくやれているが、多少のトラブルを経験している。異性の友人とはある程度うまくやれているが、恋愛感情が入ってきた場合に多少の混乱を経験している。両親像は概ね肯定的だが、父親が「嫌い」という感じを強く表現する者もあり、また「母親のような生き方はしたくない」という、同一化をめぐる葛藤を述べた者もいた。

大学1年生の発達課題への対処と自我同一性感覚

表—6

被験者 プロフィール 学部 自宅／下宿 現役／浪人 進路志向	G 3333 法 自現宅役	H 3233 法 下現宿役	I 2332 教下現育宿役	J 3332 教下現育宿役
職業志向	将来仕事につくにも融通がききそう。今は弁護士になって法律関係の仕事につきたい。親が2人とも文学部で親と一緒にいやだ。高校の時芸術部。文学部の芸術学科に行きたかったが、地に足がついていないと両親に反対された。自分も自信がなかったから。高3から法学に。(親)何かあると親に相談する。なるだけ私の意志を尊重したい。	政治学をやりたいと思っていたので語学をやりたいと思っていたが、語学的才能はないと挫折して、兄が社会学やっている影響もあって。(親)いい学校に進めれば進んでもらいたいが、本当は地元からは出たくないって。 自分の興味のまま進んできてこうなった。	最初は外国語関係を受けようと思っていたが、勉強がばかばかしくなく、その時見つけたのが心理学。人を見るのが好きだったし、人から相談されるのも多かった。それでそういう関係に進もうと思って。(親)この大学に行ってくれば、近いし。ほとんど自分で決めた。	心理をやりたいなかったから。人間を対象とした学問がいいと思って。(親)自分の意志を尊重してくれたから、そんなにとやかく言わなかった。
学業へのとりくみ	何かひとつのステイタスみたいな感じで司法試験受けて弁護士に。弱者を救える立場になる。(親)父はわりと弁護士になれよって。(影響)知人の弁護士。地元で女の弁護士は1人か2人。これからは女が頑張らなくっちゃと。自分のしたいことやりたいし、自立したい。	一番自分でも悩んでいる。この仕事をやろうっていうのがない。自分の一番の欠点。マスコミ関係とか報道関係とかやろうかなってぐらいの気持ちはあるにはあるが選べないでいる。(親)たぶんどっかに就職するだろうねってぐらいだと思う。 今考えてる以外の生き方ってないのかな、単に流されてやっているのと同じかな、とか。選択肢が少なすぎる。	安定した職業につきたいので、公務員になれたらと思うが、心理学の方面に行けたらいいなと、今迷っている。(親)就職は地元で公務員に落ち着けと。	施設の職員もやってみたと思うし、自分がどんな可能性をもっているかやってみたくてマスコミ関係も興味ある。やりがいのある仕事が好き。一生仕事を続けて、もし結婚という場合でも自立できるように経済的な力を女性にはこれから持つべきだと思う。
サークル等へのとりくみ	あまりやっていない。関係のないいろんな本とか読もうと思って読んでいくくらい。(授業)全部しっかり出ています。以前からやるべきことはやって。授業だけでもしっかりやらないと、自分がどんどん違う方へいっちゃう気がする。(親)あまり口に出していったことはない。大きな期待は持たれている気がする。	不勉強。高校時代まではすごい先生の受けのいい子をやってきた。今は「えー、皆法学の勉強少しはやってるんだろーな、私してないな」という心配はある。	勉強はほとんどしていない。時間がないし。それでいいかなと。(親)いい成績を取るに超したことはないと思う。女だから留年しないで行きなさいと。(親の希望)裏切ってないと思う。	ほとんど全部授業に出ている。自分のノートを作って試験は自分のノートでやりたい。(親)一生懸命のやりにさいと。 単位は可は嫌。勉強して損なことはないし。

表一6 (続き)

価値観	(生き方) 自分でこれがやりたいというのがあって、私はこれで満足しているんだというような生き方ができたらいい。充実していたい。(きっかけ)部活で感動した。自信を持って言えば、強く生きていけるような気がする。(親)合わないと思ったことはない。	本当は仕事で生きたい。人に認められたいっていうのがある。昔は成績のことすごく気にする子だった。ずっと前はこのまいったら地球は終わりだ。救いようがないかと思っていたが、今はなんとかしようと考えてる人が1人でもいる限り地球は終わらないし人類は続くんだぞっていうのが私の譲れない生き方。(親)人に迷惑かけなきゃそれでいいっていう。	今の自分よりもっとましになっていきたい。自分で決めて納得した生き方をしたい。後で後悔しない生き方をしたい。(それが揺らいだことは)ありません。(周りから見て) けっこう優柔不断に見えるのでは。	自分の目標を達成するまではあきらめずに生きたい。あきらめるのは嫌い。親とは今まで反対の考えになったことはなく、特に葛藤はない。
女らしさ	あまり思わない。今度生まれる時は男で生まれた。身体ではないが。男女を超越して人間らしいというのがいい。その人が輝いていたら一番いい。(性役割) もっと女の人は自由にやっていいんじゃないかな。(親)母は女の子はもっとおとなしくしていかなくちゃって。	女らしいっていうのが自分では否定したいこと。女らしく生きるのは、私にとっては悪いっていうか。兄がいるせいで私だけ家事の手伝いをやらされて。すごく反発していた。(男になりたいと思ったこと)ある。男の方が生き方がすばつと。(親)女らしくないとは言わない。	(女らしい) 特別には思わないが、そうじゃないかとは思う。(男だったら)あまに思う。自分の思い通りにやらせてもらえることとか進路などに関して。弟は私と違って思いどおり。(女の子らしく育てられた)女の子だったら学もいらなし、家のことができれば十分だと。	ある面では女らしい。でも性格は男っぽい方。でも仕事、態度、お洒落をしたという女らしさは失いたくない。高校の頃から異性と話している時、女らしさを感じる。(男になりたい)時々羨ましい。でもお洒落とか出来て女の子で良かったと思う。育児は両方でやるべき。家事は女の方がやった方がいいと思う。(親の考えとは)似ています。
身体(性)受容	(容姿) いいに越したことはないけど、中味で見てほしい。(身体)なりゆきで感じ。(性的対象として見られた時)違和感がある。世間知らずかもしれないけど抵抗がある。男と女といったら性的なものが先に立ちちゃうのは嫌。	(容姿) 背が低いから洋服を選ぶのが大変で悲しい。身長が足りないのはコンプレックスの1つ。顔は普通だし悪いとは思っていない。(身体)ありません。(性的関心が向けられる)いつも子供扱いされてるからそんなことないと思う。	(容姿) もっときれいに生んでくればよかった。(不満足)別にそんなに思わない。(体がしっくりこないこと)あります。(性衝動が向けられること)考えたことがない。	(容姿) これで生れてきたから配置がいいのは望まない。たとえ悪くても愛敬のいい顔になりたい。(身体) 痩せたいと思ったことはあるけど、悩みというわけではない。(性衝動が向けられること) 大学に入ってコンパの席でそういう話ばかりした人がいて、近寄りたくない、不潔という感じ。だから避けちゃう。
同性の友人との関係	いっぱいいます。高校の芸術部の友達。頼れるし甘えられる。(困ったこと)3人のグループで私が1人の子といることが多くなってもうひとりの子と喧嘩したことがある。今は親友。(苦手)あまりいいない。	少ないとは思いません。(親しい友人) クラスに1人サークルに1人。(困ること)女の子同志っていうのは人と付き合う時でも汚いと思ったことがある。(苦手)あまりにも私に似た人。	割りと多い。クラスやサークル、よく接する人。下宿生だからその子の家へ行って夜明したり。友達にも個人的なことはどうしても言えないこともある。(困ったこと)小さな村の中学の一番いいクラスにいて、他のクラスの人からつかれたり。そういう人からやっとな開放されてうれしい。(苦手)劣等感を持っている人、自分と性格が違いすぎる人。	同じ学部のサークルの子、悩みを話したりする。隠していることがなくて何でも話す。(困ったこと)中学はいじめの問題とかあって悩んだ。(対処)仲の良い子に相談したり。(苦手)陰でこそこそやっている人。
異性の友人との関係	いっぱいいる。(つきあっている人)今はいい。(親しい人)5、6人。何でも話せて何でも聞いてくれて向こうも何でも話してくれる人。(困ること)友達だと思っていたら向こうが恋愛関係だと思っていた。ショックでしばらく落ち込んだ。自分の恋愛感情の処理に困ったことも。(苦手)あまり出会ったことない。	サークル内に2、3人。つきあっていないが、悩みが話せそうな人。一緒に歩いているつもり妙に女であることで下手にできるとか頼ることは避けたい。(別れ)自分のペースが保てなくなった。相手の気持ちに合わせようとして自分じゃないような感じで。妙に可愛い子にならなきゃいけない感じで嫌だった。(困ること)ありません。(苦手)自信過剰でどうしようもない奴。	男友達は少ない。当たり障りのないこと話したり。すごく遠い感じ。困ったこともない。	多いほうじゃない。(つきあっている人)一応います。きょうだいで一番上だからある程度甘えたい。(困ったこと)ない。(苦手)性格的に男っぽくない人。

表-6 (続き)

家族	父	大卒。高校の先生。自分に自信を持っている人。(嫌い) ない。満足している。	中卒。友人の関係で店を。面倒見がいい。リーダーシップを取り意見を出して、物事をやる。(好き) 高2, 3の頃は嫌いだったが最近では離れてみて好きだなど。(嫌) 煙草やめてくれない。	人が良くておとなしくあまり喋らない。中卒, 大工。あまり好きじゃない。もっと視野を広く持ってほしい。考え方が凝り固まっていて嫌い。	大学院卒, 会社員。無口で似ているタイプ。努力家。(好き) 尊敬はしているがもっと話してほしい。(嫌い) しつこく近寄ってきて幼稚っぽい取り扱いされるのが嫌。
	母	大卒(文学部) 高校の先生。わりと日本的な人。何でも話は聞いてくれる。私のことを尊重してくれる。(嫌い) 特にない。	中卒, すごく真面目。強くないのによく働く。ごまかすことをすごく嫌がる。(好き) 好きだけどお母さんのような生き方はしたくない。耐えるところまで耐えちゃうっていうのは嫌。	おしゃべり。内職をしている。	大卒, 主婦。さっぱりしていてひたすら元気。母親というより友達みたい。何でも対等に話す。男性のことでも何でも話してしまいます。(嫌い) 気分によって態度が変わる。
自己分析		人によく思われたい。人ががっかりされたくない。(変化) 自分に自信が持てるようになった。(中→高→大) あまり変わっていない。(これから) 特にないが何でも投げ出さずに一生懸命やっていけるようになったらしい。	明るい, 考えてることはいわゆる真面目。楽天的で自分の思い通りに生きている。(変化) わがままだったのが修正された。(これから) 自分の意見を主張できるようにになりたい。	芯はしっかりしているが, おとなしく内向的。(中→高→大) あまり変わっていない。(今後) もう少し外向的になって積極性が身についたら。	積極的な人間。(中→高→大) 昔より社交的になった。中学のいじめのある世界より, 高校のようところで明るくなった。(これから) 特にない。もっと社交的になりたい。目標に向かって努力していく。
その他		(安定) いつも安定している。(人の嫌な所) 誰だって本当はすごい人だって思っているから。落ち着いている, 優しいって言われるのは嫌。自分はそんな強い人間じゃないと思っているから。	頼ったらくせになっちゃう。自分が弱いから。6月頃に5月病にかかりそうになった。2日くらい家で悩んで。じぶんの居場所を作ろうとサークルに入ろうと。	感情的にはいつも落ち着いている。中・高と周りからいろいろ言われた時に不安定に。その時は、自分で答えを捜して解決した。	人の気持ちを考えすぎ, 人がどう考えているのかいつも気になる。
印象		落ち着いている。包み過ぎのような雰囲気。何にでも純粋に頑張っているが, それほど無理はしていない感じ。とてもしっかりしている。	話したすとややとりとめないところがある。エネルギーはあってやっていたるが, 危なっかしさも持っている。	真面目な田舎の女の子という感じ。とてもしっかりはしているが他者に対してはあまり主張していない。	とても純粋でエネルギーのある子。

面接を終えての感想としては、自己分析で本人たちも述べているが、積極的で、達成志向的だが、一方で対人関係的に他者からどうみられているかを意識している。自己評価は高く、頑張っており、物事に向けてのエネルギーを感じさせられる印象があった。

4) 自我同一性感覚の低い女子の発達課題への対処様式について：

EIS の低得点者5名の面接内容を表-7に示す。面接内容については、プライバシーを守るために、内容を損なわない程度の改変を加えてある部分もある。

自我同一性感覚の低い者のうち、5名全てが自宅生で、現役合格であった。以下、5名の被面接者に共通の点について、まとめていきたい。

表-7

被験者 プロフィール 学部 自宅／下宿 現役／浪人 進路選択	K 1111 文 自 宅 現 役	L 1111 教 育 自 宅 現 役	M 1121 教 育 自 宅 現 役	N 1121 教 育 自 宅 現 役	O 1112 法 自 宅 現 役
職業志向	<p>特にありませんが、他の学部は考えたことがありません。学校は親の希望で地元がいいということで、学部は自分の好きなところ。祖母は女の子だから短大がいいと言ったが耳をかきなかった。国語が好きだったから。</p> <p>まだ何も考えていません。できれば学部の特徴をいかした仕事の方が。今は、関係ない仕事でも収入がよければいい。 (親) 地元で普通に就職すればいいと思っっていると思います。</p>	<p>特に教育にひかれているわけではなく、最初は経済とかに入りたかったけど、学力で。進学に関しては姉と親に相談した。この大学には姉が通っていたので絶対入りたかった。家から出してもえなかった。</p> <p>教育学科に行こうと思うが、まだ考えていない。先生には絶対にならないと思う。家の雰囲気があるから、別はどこか、それまでの職を探せばいいなら、就職については深くは考えていません。(親) 就職はして欲しいみたい。自分の希望が特にあるわけではないから親に従ってもいい。</p>	<p>最初心理学に興味があって、途中、法学部に変えていたが、共通一次の結果で先生に相談して、浪人しなくなかった。心理学はただ言葉に興味があっただけ。(親) できれば家から通える所がいいと。</p> <p>学科もまだ決めていないし、職業もあまり考えていない。教育関係とか人間と接するような感じがいいって気がする。なれそうな職業に限られている感じがするし、何があるかわからない。(親) 公務員とか、家業の関係でそういう所に嫁げばいいという。嫁に行けというのは大きなお世話。</p>	<p>心理学に少し興味があって、先生が面白いて言ったから。親の条件が通えるところで、それから自分に合っている所を選んだ。一時期、経済も考えたが、何となく自分に合っていないそうだから。</p> <p>具体的には考えていません。4年間行くので能力を見るところ、マスコミ関係とかがいいかなと。(現実的には) 一生懸命働いていけるところ、教師や公務員だが、特に希望はしてない。</p>	<p>文学部も考えたが、将来の就職のことも考えて。将来、自立した職業を絶対持ちたかったから。(親) 地元の大学に。これが決まっていた。自分だけで決めると不安だから周りの人と色々と相談した。</p> <p>司法試験を受けようと思って入ってきたが、今、これにしろというものが無いが、一生使える資格はとりたい。男女平等な職につきたい。今は企業もいいのではないかなと思っている。(親) 資格とってとかは親の意見。尊重すべきか自分で決めるべきか自分でもわからない。(周囲) 教員が向いてるんじゃないかって。本当は自分が何に向いているのかわからない。自分の考えに自信ない。</p>
学業へのとりくみ	<p>今ではあまり勉強していません。大学で勝手にやるようになるのと何をやっていいのかもわからないし、周りもやっている様子はないので。講義は一応聴いてノートとっていても考えごととしてることが多い。外国文学科志望で競争率が2倍あるので心配。</p>	<p>面白い授業はわりと真面目に聴くけど、嫌いなものと面白くないのには出ない。(親) 本人任せで何も言いません(周り) 真面目じゃないと思っているだろう。前期に名大祭の活動でさぼっているうちに遊びぐせがついて、出たくないと出て出なかった。</p>	<p>出るけど、喋ったり筆談したりして、あまり聴いていない授業とかもある。(親) 自分のことら自分でやれて。単位が取ればいいのかという気持ちもあるが、同じ取るなら可よりも優で取りたいと思う。</p>	<p>テストがなければ勉強しない感じ。怠けただけ怠けることかどうでもよくなって、切羽詰まるまで気づかずいたりする。(親) 4年間で卒業すればいいと思っている。</p>	<p>不真面目でだんだん勉強しなくなってきている。自分で何とかしなきゃと思いつながりながら惰性に流されて。(親) 期待が過大。不満でしょう。大学の勉強以外にもやりたいことがたくさんあるのに手をつけてない。</p>
サークル等へのとりくみ	<p>アルバイトは家庭教師を意欲的にやっています。なるべく成績があがるように一生懸命やる。美術系サークルは遊びの要素が強いところで大体部室で遊んでいるし、楽しくやれている。思ったように描けると(サークル) 楽しい。異性の先輩が苦手自分でだけうまくやれなくてつまらないと思うことがある。</p>	<p>特に今何もやってなくて、張りがないから。何かやろうと思っっています。サークルも最初顔つっこんだけど、自分に合わないをやめた。入ると何かが崩れる。それで入れないでいる。(周り) 心配して何か入ったかと思っってくれる。(親) いろいろやれと言ってくれて有り難いと思っています。</p>	<p>サークルは入っているが授業の関係とかで、つながりはあるがほとんど行っていない。みんなで集まって、喋ったり、そういう感じが楽しい。先輩の男の人がむこうは好意でしてくれて嫌だったことがある。</p> <p>高3までやっていた習字をもう一度やろうと思う。</p>	<p>一時期は体育系サークルのために学校へ来ていた。試合前は学校サボっても毎日通った。雰囲気がいいし、行けば誰かに会える。いて楽しい。(アルバイトとサークルで1週間が埋まるが) 忙しいです。何もしていないよりは。家にいてはぼーっとしていただけです。</p>	<p>体育系サークルは練習にはすごく満足しているが、遊びの面ではなかなかついていけない。バイトを優先させてしまう。バイトはサークルっぽい感じがある。(親) 親の圧力で、もう一つ研究会へ入ったがあまり行っていない。バイトより学業を優先させなさいと言う。</p>

表一 7 (続き)

価値観	<p>生き方は趣味なんかを大切に余暇をうまく使えるような、自分なりに楽しくやりたい。経済的に意味のない成功するかどうかわからない仕事はしたくない。そんなにはっきりした考えはないから。はっきり主張することはそんなきない。(親)一生の職についた方がいいと。両親は私が理想としているような生活していない。</p>	<p>平凡に暮らしているけれどそれが一番だと思ふ。普通じゃないと大変なものがあるし、苦勞するし。(親)結婚しない方がいいのは絶対にいかなんと言った。(周り)もうちょっと真面目に考えた方がいいと思っているだろう。</p>	<p>(尊敬する人)親戚で弁護士をやっている夫婦。自分もものすごく忙しいのに、相手の人のことを一生懸命考えてあげているところとか。</p> <p>自分がやられて嫌なことは他人も嫌だろうからそういうことはしないでおうと。小学校で今の中学でのいじめめたいのがあって。(親)他人に迷惑をかけるな。他人に感謝しないさい。</p>	<p>将来に対することを全然考えてなくて。結局平凡になっちゃうのかな。</p> <p>人に左右されやすい。自分なり考え方とか持ちたいと思うのですが、結局は自分を押し通すだけのものを持っていない。人の言うことの方が上に見える。自分に自信がないのかもしれない。</p> <p>(周り)「何も考えないでしょ」と言われる。(親)細かいことは言うけど、あとは別に。</p>	<p>自分に正直でありたい。ある意味で自分に我儘なのかもしれないけど。頑固なわりに他人の意見を受け入れてしまうこともある。自分に自信が持てないから、昔は自分がどう思われようかと思っていたが、今は慎重な面もでてきた。理想がすごく高く、近づけない。自分が情けなくて泣くこともしばしば。大体、友人に相談することが多い。</p>
女らしさ	<p>あんまり思いません。いわゆる女らしいっていう家事とかができないから。</p> <p>自分は何をやってもうまくいかないし、しっかりしてないから、今の社会だと男の人の方が責任があるし、そういう意味では自分が女でよかったと思う。</p>	<p>そんなにらしいとは思わない。性格とかわりと男の子に似てサバサバしているから。男の人という方が家で、女の人というひかなきやならない。(親)わりと女らしいと思っている。家のことはやるから。(男)だったらよかったと思つたことありません。働かなくちゃいけないから。</p>	<p>そんなに思いません。よくわからない。男の子だったら許してもらえることが女の子だからってダメだったりすると違ふんだなと思う。(男)だったらよかった)はい。もっと自由な感じがする。(性役割)女だからできないと言われるのは嫌いだ。</p>	<p>性格的に弱い面が女らしいと思ひます。いい意味ではないですが。(男)だったら)ない。男の子は大学や就職にいていても一生を背負っていかなくちゃいけないが、女の子はそこまで深刻にならなくてもよいて感じ。(家事)同じ兄妹で私だけと思うことはある。男の子の前では女の子なんだと思います。</p> <p>(容姿)今のままでいいと。高校生ぐらいからよりよく見せたいとは思ってきた。(身体)中学生の時は戸惑つたりしたかな。今はない。(性衝動が向けられること)あまり考えたことがない。</p>	<p>感情が先行する点では女らしいが、それ以外は女らしくない。反発していたが、高校時代から所詮自分は女だからって。(男)だったら)中学までは。今はない。家族を背負っていくのは男だから、社会的責任は重い。自分にはそんな責任は負えないから。(性役割)認めたくない。(親)思っていない。</p>
身体(性)受容	<p>(容姿)あまり好きではない。もっといいほうが良かった。(身体)そんな話はいつでも少しはするけど、特にした時期はない。プロポーションは女らしくないと思う。(性的な関心)全くない。</p>	<p>(容姿)満足しています。変だから嫌だと思つたことはありません。(性衝動が向けられること)友人にそういうことバツバツという人がいるので、男の人ってそうかなって。</p>	<p>(容姿)普通かなって思うけど湿疹とかできてるのは嫌だなんて思うし。まあ、そんなもんだと思つて。(身体)もっと足が細かたらいいと考へたりするのはよくある。洋服買う時とか。(性衝動が向けられること)あまりそういうことはないから。</p> <p>けっこう多い。(親しい友人)いろいろ相談にのってくれる人とか。頼れるっていうか、気が休まる。ホッとする感じはあります。(困ったとき)友人関係とかで何あった時には他の友人に話して。(苦手)自分の考へていることを押し付けてくる、嫌だなんて思つたり。</p>	<p>(容姿)今のままでいいと。高校生ぐらいからよりよく見せたいとは思ってきた。(身体)中学生の時は戸惑つたりしたかな。今はない。(性衝動が向けられること)あまり考えたことがない。</p>	<p>(容姿)自信がありません。満足はしていません。(周囲)性格的に気にするよ。(身体)身体的発達遅かったから不安はありました。今はありません。(性衝動が向けられること)意識したことはない。</p>
同性の友人との関係	<p>多いほうではない。学校とかサークルとか近所とか。(親しい友人)悩みとか話せる。(困ること)ない。(苦手)あんまり遠慮がなさすぎると、それなりに一線を引いてるところもあると思うし、そういうところのない人はちょっと。</p>	<p>男の人が多いが女の人も多い。(親しい友人)高校の時の友人が一番いろいろ話せる。引っぱってくれる。(困ったこと)怒っているのに何も言ってくれない人がいて、無視されてどうしたらいいかわからなくなった。女の子の方がすぐにいろんなことを気にしそうな気がして話すことも気をつけなきゃいけない。(苦手)何考へているんだかわからない。</p>	<p>けっこう多い。(親しい友人)いろいろ相談にのってくれる人とか。頼れるっていうか、気が休まる。ホッとする感じはあります。(困ったとき)友人関係とかで何あった時には他の友人に話して。(苦手)自分の考へていることを押し付けてくる、嫌だなんて思つたり。</p>	<p>多いほう。(親しい友人)高校からの子。私は引っ張るほうではない。(困ったこと)しっかりした子を見ていて、自分が情けないなと思ひます。(苦手)自己主張が強すぎる人。</p>	<p>多い方。誰とでも友人になれる。(親しい友人)いつも一緒にいる。ひっぱっていくことが多い。隠し事もできない。すぶに見破られちゃう。甘えている。(困ったこと)男情の前と女性の前で態度の違う子がある。攻撃的になってしまう。(苦手)自分にはないような女らしいところを持っている人は、ねたんでしまう。</p>

表一 7 (続き)

異性の友人 との関係	<p>男友達といえるような友達はいない。異性は昔からだめだから、高校の時は昔からだめだから、高校の時は喋ったこともなくて、大学でちょっと喋るようになったって感じ。意識しちゃう。(困ること) サークルとかで男の人の中とか2人で何かしなきゃいけない時に、大勢の方がいいのになと思う。(苦手)いわゆる軽い人。遊びで異性と付き合えるような。</p>	<p>多い方。(つきあっている人)いません。(親しい人)いろいろ。私としては一貫して冗談ばかり言っている冗気な子タイプでやってる。わりと頼れる子が多い。(困ったこと)恋愛感情が混じってくるとやばい。グループの中で感情が入るとまずいと思う。(苦手) 固そうな人。</p>	<p>そんなにはいない感じ。(つきあっている人) そういうことになっている子はい。(親しい人)相談にのってくれる感じの子。(困ること)今つきあっている子とは事情があってそうになっていて。他に好きな人がいてふられる。(苦手)押し付けられるのとはつきりしない人。</p>	<p>サークルの中では仲いい。(つきあっている人) いる。いっぱいいてくれる人。(困ること) こっちにその気がないのにつきあってほしいと言われたり。(苦手) うっとおしい人。人が一生懸命やっているのにつこんでく人。</p>	<p>友人は多い方です。何でも話せるような人はいない。(親しい人) バイトの先輩。こちらが話すことを聞いてもらう。甘えてばかり。(困ること) 苦手なタイプの人。男の人だと本当に怒っちゃう時もある。(苦手) 軽い人。度を越えた冗談とかいたり。</p>
家族 父	<p>高卒。ちょっと事情があって会社に勤めるようになったのが最近。(好き) 頼むと何でも親身になってやってくれるところ。(嫌い) あまり人の考えを理解してくれないところ。</p>	<p>大卒の銀行員。怒ると怖い。(好き) 冗談ばかり言っているところ。(嫌い) 自分の考えを絶対曲げない。甘えるのは物だけ。</p>	<p>大卒の僧侶。やさしいけど逆らえない。(好き) いろいろ教えてくれるところ。(嫌い) 特別どうしてもということはない。</p>	<p>大卒の教員。性格的には古い。あまり好き嫌いはない。あまり仲がいいわけではない。小さい頃はあまり自分の方を向いてくれなかった。</p>	<p>高卒の会社員。頑固。やさしいが干渉する。でも好き。頼れる。</p>
母	<p>高卒で家で自営業。精神年齢が幼い。ちょっとしたことで喜んだり心配したりする。(嫌い) もっと要領よくやればいいのかにできない。神経質なところが自分に似ている。甘えることもあるし母の方が頼ってくることもある。</p>	<p>高卒の主婦。他人の意見をきかない。面白いところもある。いい時は好きだけど、ケンカするとダメ。付き合いにくいところもある。</p>	<p>専業主婦。中学くらいから対等に話している気がする。近い存在。(好き) 自分とこの親が一番いいや。(嫌い) 自分の感情を最優先するところ。</p>	<p>高卒の専業主婦。家庭的な人。けっこういろいろ話す。甘えるという感覚はあまりない。</p>	<p>高卒。働いてる。私にすごく似ているので、反発をおぼえる。自己主張する。社交的。好きだが、本当に自分のことわかってくれないことがある。頼れない。</p>
自己分析	<p>プライドも高いがコンプレックスも強い。責任のないところも。(中→高→大) 小学校の頃先生の影響ですごく変わり、後はあまり変わらないが、はたからみれば変わったかも。(今後) 異性とも幅広く付き合えるようにする。将来に向かって目標を立て努力したい。</p>	<p>もうちょっと考えを持ったり、将来のことを思ったり、生き方をしっかりしなくちゃいけないと思う。(中→高→大) 性格的にあまりかわっていない。(理想) 何か見つけてうちこみしたい。</p>	<p>意地っ張り決められないっていうのと。(中→高→大) あまり変わってない。(理想) 自己中心的なところとかなおしたい。</p>	<p>全然親からも自立できず弱い。これだというものがなくて情けない。(中→高→大) 大学に入って視野が広がってきた。あとはあまり変わらない。(理想) もう少ししっかりしたい。</p>	<p>強いように見えるんだけど実は弱いところがある。(中→高→大) 性格はガラッと変わってきた。昔は神経質で人づきあいが下手で、今は人と話すの好きになった。(理想) 感情先行をなくす。</p>

表一 7 (続き)

その他	すごく気分が変わりやすい。不安定になった時は友達に電話を掛けたりする。(神経質)少し自意識過剰。元来完全主義者。	一晩ねて、学校で元気になって家に帰って、疲れてというサイクル。親の前では真面目をつくる。	何かあると、いろいろ考えて不安定。友人に話す。大学に入ってから波が激しかった。嫌われるより好かれていたい。	あまり細かい所にこだわらず、まあ何とかなるんじゃないかという感じ。初対面の時は緊張する。	自己嫌悪になりがち。大学に入ってからすごく不安定で、自分でもどうしようもないことがある。友人の協力をあおいだり、自分で諦めたりする。
印象	緊張が高い。途中でこのまま話し続させてよいのかと、考えてしまうような感じ。	一見、わりと遊び人タイプにも見えるが、固さを感じる。	すごく幼い印象がした。今は男女関係で困っている感じだが、基本的には処理していく力を持っているそう。	口数少なめで「この子何にも考えてないのか」と感じさせる。安定はしている。	非常に早口でまとまりのない話しをする。自分の中のイメージがうまく言葉にならない感じがする。神経質であやうい感じのする人。

進路選択については、親の意向で地元大学というのがあって、そこから成績で選んだという感じであった。職業志向については、「まだ考えていない」ということで漠然として具体的にやりたい職業のイメージはあまりないようであった。学業については、授業は真面目に出るが、集中してはならず、単位がとれればという感じであった。サークルなどの課外活動については、参加していなかったり、あまり積極的な関与ではない者が多かった。価値観については、明確なものはなく、他者に左右されやすいという感じがあったりするようで、「平凡」でも、楽しく、自分に正直にやりたいという感じであるようだ。女性性に関しては、女らしくないといっているが、内容的には「男は責任あるので大変だから」「女性でよかった」と述べ、拘束される不満はあるが、葛藤はあまりないようだった。身体的には特に葛藤はないようであった。同性の友人とは、それなりにうまくやっている。引っ張ってくれるような活動的な友人とうまく受身的にやっていると述べている。異性の友人とは深くかかわってということはなく、恋愛感情の扱いに戸惑っている者がいた。両親像は概ね肯定的で、ある程度、同一化対象となり得ている。

面接を終えての感想としては、自己分析で本人たちも述べているが、自分が「弱い」「これだというものがない」という感じがかり、自分の表現できなさ、あるいは自信のなさを感じた。自己評価は高くないものの、反面、安定した感じにいるという印象がした。

4. 討 論

1) 男子大学生において同一性感覚の高さが発達課題への対処に与える影響について：

男子大学1年生のEIS高得点群(MH群)と低得点群(ML群)とを領域別に比較してみると、進路選択ではMH群では迷い(危機)のなかから自分で決定したという感覚が強いのに比べ、ML群ではあいまいである。職業志向についても大学1年生ということでは明確なも

のにはなっていないが、MH群の方で現時点での仮の方向性を持てている傾向にあった。学業については、学業がうまくいかないことについての不安がML群の方が高く、真面目に学業に取り組んでいると述べている。課外活動については、ともに熱心に参加しているが、MH群では積極的に関与していこうとする傾向が高いのに対して、ML群では自分の居場所として大切なものと感じている。価値観では、MH群では競争的で、自分が他者よりも優れた立場を目指したいという志向が強いのに対し、ML群ではリーダーを補佐するような立場で、競争的でない位置のなかで控え目にやっていきたいとする。男性性や身体については、MH群では葛藤があまりないのに対して、ML群では自分が「男らしくない」という感じがあり、他者からどう見られるかが気になっている傾向がある。同性の友人とは両群ともそれなりにやっているが、MH群で弱みを見せることへの抵抗感が、一方、ML群で頼ることやうまくいかないことについての不安が語られた。異性の友人とは、両群とも親密な関係をもっているものではなく、ML群でうきあがってしまうことによりかなり不安をもっている者がいた。両親は特に大きな問題は両群ともみられなかった。

以上のような結果をまとめてみると、男子学生においては、自我同一性感覚の高さは、①自分が自分の人生を選択していくという実感、②物事に対する不安や他者との関係における不安の強さ、③物事に関与していく際の積極性、④他者に対する競争意識の強さ、⑤取り組みにあたっての自信の強さなどに大きな影響を与えていた。

今回の結果を同一性ステイタスに照らしてみると、MH群は危機を経験した者としていないものとがあるようだが、積極的な関与はおこなっている。一方、ML群は危機を体験しつつあるか、未だしていない者で、積極的関与はおこなえていなかった。同一性達成もしくは早期完了型の者が同一性感覚が高く、モラトリアムもしくは同一性拡散の者が同一性感覚が低いということが可能であるように思われる。さらに、これらの結果は、Jesselson et al. (1977a) における心理社会的成熟度の高低の比較において、衝動からの自由さ、自己評価の獲得、性同一性の解決、自律性の成長で差異が見られたことと、ほぼ同様の結果を示したといえる。

2) 女子大学生において同一性感覚の高さが発達課題への対処に与える影響について：

女子大学1年生のEIS高得点群(FH群)と低得点群(FL群)とを領域別に比較してみると、進路選択では両群とも地元にてほしいという親の意向を受け入れたうえで、FH群では自分の学びたい学問領域であることから自分で決定したという感覚が強いのに比べ、FL群では成績で決まったという感じがある。職業志向については大学1年生ということで明確なものになっていないが、FH群の方で現時点で、どうしようか迷っており、自立の方向を意識している。学業については、両群とも真面目に学業に取り組んでおり、集中してやっておらず、単位が取ればよいというのがFL群の方で高いようである。課外活動について

は、FH群では積極的に関与していこうとする傾向が高いのに対して、FL群ではあまり熱心でないものが多かった。価値観では競争的ではないが、向上心が強く自分を高めたいという意欲が強いのに対し、FL群では他者の影響を受けやすく、平凡でも楽しくやりたいという志向である。女性性や身体については、FH群では女性であることをめぐる葛藤が強く、性的なことがらに対する嫌悪感があるのに対して、FL群では拘束される不満はあるが、男性の方が責任があるということで女でよかったという感じがあり、さほど葛藤的でない。同性の友人とは両群ともそれなりにやっているが、FH群では多少のトラブルを経験しているが、一方、FL群では活動的な友人と受け身的に依存してやっているようだ。異性の友人とは、両群とも親密な関係をもっているものは少なく、FH群で恋愛感情の扱いを難しく感じるものが述べられた。両親像はFH群で同一化をめぐる葛藤を述べている者がいた。

以上のような結果をまとめてみると、女子学生においては、自我同一性感覚の高さは、①自分が自分の人生を選択していくという実感、②自分を向上させていきたいという意欲の高さ、③「自立」や女性をめぐる葛藤の強さ、④物事に関与していく際や対人関係での積極性あるいは受動性の強さ、⑤取り組みにあたっての自信の強さなどに大きな影響を与えていた。

今回の結果を同一性ステイタスに照らしてみると、FH群は危機を経験したか、現在経験しつつあり、積極的関与はおこなっている。一方、FL群では危機の経験が明確になく、積極的関与があまりないものである。同一性達成もしくはモラトリアムの者が同一性感覚が高く、早期達成もしくは同一性拡散の者が同一性感覚が低いということが可能であるように思われる。さらに、これらの結果は、Jesselson et al. (1977b) における心理社会的成熟度の高低の比較において、不安に耐える能力、対人関係面での発達した用いられ方で差異が見られたことと、ほぼ同様の結果を示したといえる。

3) 発達課題への対処様式における性差について：

自我同一性感覚の高さとの関連での発達課題への対処様式における性差については、いくつかの点から指摘していくことが可能である。はじめに男女ともに共通のものをあげていくと、①自分が自分の人生を選択していくという実感、②物事への積極性、③取り組みにあたっての自信などがあり、男女ともに自我同一性感覚の明確な者にこうした傾向が著顕にみられた。

一方、重要な性差がみられた。第一に男子では自我同一性感覚が低いことが男性性や価値観などにおいて強い葛藤を起こすのに対して、女子では逆に自我同一性感覚が高いことが女性性や価値観などにおいて、「自立」もからんでの葛藤を引き起こしている。こうした結果は、EISによって測定された自我同一性感覚の高さは、男子では同一性感覚が明確なほど適応がよいと考えられる方向性を有するのに対し、女子では同一性感覚が高いほど適応がよいとはいえず、性同一性の形成に関連しては、葛藤がかえって強くなることが明らかにされた。これは Hodgson & Fisher (1979) でいう男性型経路と女性型経路とで、同一性の高い者、低

い者が分けられる可能性すら示唆するともいえる。女性の同一性を考える場合には、男性とは様々な点での差異があることを意識していく必要がある。第二に、男子においては自我同一性感覚の乏しさは不安の高さに裏打ちされるのに対して、女子では受け身的であることが許容され、より安定していられることが明らかになった。日本において、未だ伝統的な性役割観のもとに「おしとやかな・おとなしい」女性が、本人たちは一定の自立への志向性や葛藤はあっても、社会的に一定の望ましい姿を与えていることを示唆しているとも考えられる。さらに、第三に男子では自我同一性の高さが他者に対する競争意識や優越感に裏打ちされているのに対し、女子では自分を向上させようという自分のなかの感覚にとどまっている。こうした結果は Thorbecke et al. (1982) で指摘されている友人関係に関する積極的関与と競争意識の関連性と一致している。女性では他者との関係が円滑にいくことを考慮するので、男性のような競争の関係のなかで自分を位置付けることはないようである。

5. お わ り に

本研究においては、自我同一感覚尺度において、高得点を示した者と低得点を示した者を対象に、発達課題への取り組みにどのような差異が見られるかを半構造化面接によって検討したものである。本研究においては、同一化ステイタス研究のように何らかのステイタスに評定・分類したうえでの比較でなく、面接によって得られた面接内容自体を記述的に示し、その内容を比較検討することを試みた。こうした研究手法は、客観性を欠くという問題点を内包していると批判される可能性を有する。しかし、実際の青年像そのものを捉えていくことに重点をおいた場合に、こうした現象記述的な方法論が一定の意義をもつと判断した。面接をおこなった筆者自身の面接者としての技量的な問題で、十分な青年個々の精神力動までを明らかにしていくことができなかったという問題点もあり、表層的な分析に結始しているという反省は残るものの、青年の「生の」姿を浮かび上がらせる試みはおこなえたものといえる。

今後の課題としては、Erikson の提起した自我同一性概念をより明確に記述し、考察していくためには、自我同一形成過程をより臨床的な視点から、境界例水準や神経症水準のクライアントの精神分析的な心理療法を中心とした、青年個々の精神力動をうかがいあがらせる臨床的研究をすすめていく必要がある。また、本研究では、個々の青年の児童期から現時点までの危機の経験について、十分な考察をおこなえなかったが、さらに、今回の研究対象となった大学生（青年期後期）にいたる、児童期後半からの自我発達過程について両親像の変容との関連から研究をおこなっていくことが重要な意義をもつものと思われる。

補遺

今回の被面接者はすでに大学卒業後数年を経ており、彼らのなかの数人の大学4年間の様子について、筆者

が知ることができている。特に自我同一性感覚が大学1年生の時点で低い得点を示した者の何人かは、高学年になってサークルの役員をやるなどの体験のなかで、自信に満ちあふれた様子で卒業を迎えていた。大学1年の時点において、「危機」を迎えていても、大学生活のなかのさまざまな体験のなかで、そうした「危機」を乗り越え、安定して社会に巣立っていくことが筆者には実感された。そうした意味で、やはり自我同一性感覚は性格特性といったようなものでなく、青年期のおおのの時期に青年が抱く、自分についての感覚が集約されたものであるということを改めて感じた。

付記：本研究は筆者の名古屋大学大学院教育学研究科に提出した修士論文（1989）の一部を加筆修正したものである。御指導いただいた久世敏雄名古屋大学名誉教授（現、愛知学院大学）に心より感謝の意を表する。

文 献

- Archer, S. L. 1989 Gender differences in identity development: issues of process, domain and timing. *Journal of Adolescence*, 12, 117-138.
- Blos, P. 1962 *On Adolescence-A psychoanalytic interpretation*. Free Press.
- Cote, J. E. and Levine, C. 1987 A formation of Erikson's theory of ego identity formation. *Developmental Review*, 7, 273-325.
- Dignan, M. h. 1965 Ego identity and maternal identification. *Journal of Personality and Social Psychology*, 1, 476-483.
- Donovan, J. M. 1975 Identity status and interpersonal style. *Journal of Youth and Adolescence*, 4, 37-55.
- Erikson, E. H. 1959 *Identity and Life Cycle: Psychological Issues*. International University Press. （小此木啓吾（編訳）1973 自我同一性—アイデンティティとライフサイクル. 誠信書房）.
- Havighurst, R. J. (1953) *Human Development and Education*. Green & Co. （荘司雑子（訳）1958 人間の発達と教育. 牧書店）.
- Hodgson, J. W. & Fisher, J. L. 1979 Sex defferences in identity and intimacy development in college youth. *Journal of Youth and Adolescence*, 8, 37-50.
- Josselson, R., Greenberger, E., & McConochie, D. 1977a Phenomenological Aspects of Psychosocial Maturity in Adolescence. Part 1. Boys. *Journal of Youth and Adolescence*, 6, 25-55.
- Josselson, R., Greenberber, E., & McConochie, D. 1977a Phenomenological Aspects of Psychosocial Maturity in Adolescence. Part 2. Girls. *Journal of Youth and Adolescence*, 6, 145-167.
- Kroger, J. 1986 The relative importance of identity status interview components: replication and extension. *Journal of Adolescence*, 9, 337-354.
- 前田重治 1976 心理面接の技術—精神分析的な心理療法入門—. 慶応通信.
- Marcia, J. 1966 Development and validation of ego identity status. *Journal of Personality and Socail Psychology*, 3, 551-558.
- 松本真理子・村上英治 1985 女子青年の性別同一性に関する研究—枠付け面接法による接近の試み—. 心理臨床学研究, 2, 32-43.
- 無藤清子 1979 「自我同一性地位面接」の検討と大学生の自我同一性. 教育心理学研究, 27, 178-187.
- Newman, B. M. & Newnan, P. R. 1984 *Development through life-a psychosocial approach*-. Dorsey. （福富護・伊藤恭子（訳）1989 生涯発達心理学. 川島書店.）
- Orlofsky, J. L., Marcia, J., E. & Lesser, I. M. 1973 Ego identity status and intimacy vs. isolation crisis

- in young adulthood. *Journal of Personality and Social Psychology*, 27, 211-219.
- Rasmussen, J. E. 1964 The relationship of ego identity to psychosocial effectiveness. *Psychological Reports*, 15, 815-825.
- Rogow, A. M., Marcia, J. E. & Slugoski, B.R. 1983 The relative importance of identity status interview components. *Journal of Youth and Adolescence*, 23, 387-400.
- 佐藤文子 1975 実存心理検査 — P I L —. 岡堂哲雄(編) 心理検査学 — 心理アセスメントの基本 —. 垣内出版, pp323-343.
- Schiedel, D. G., & Marcia, J. E. 1985 Ego identity, intimacy, sex role orientation, and gender. *Developmental Psychology*, 21, 149-160.
- 清水秀美・今榮国春 1981 STATE-TRAIT ANXIETY INVENTORY の日本語版(大学生用)の作成, 教育心理学研究, 29, 348-353.
- 杉原保史 1988 自我同一性地位における早期完了型について—事例に基づく考察—. 心理臨床学研究, 5, 33-42.
- 砂田良一 1979 自己像との関係からみた自我同一性. 教育心理学研究, 27, 215-220.
- 鈴木真悟 1985 中・高校生の発達課題への取組みと非行との関連に関する研究—1. コーピング資源, 自立性, 自己統制, 自己探求の側面からの分析—. 科学警察研究所報告(防犯少年編), 26, 25-45.
- 鈴木真悟 1986 中・高校生の発達課題への取組みと非行との関連に関する研究 —2. 社会成熟性, 規範への態度および達成志向の側面からの分析—. 科学警察研究所報告(防犯少年編), 27, 85-96.
- 鈴木真悟 1987 中・高校生の発達課題への取組みと非行との関連に関する研究—3. 葛藤体験, 葛藤反応様式, 心理社会成熟度の側面からの分析. 科学警察研究所報告(防犯少年編), 28, 27-39.
- 高橋裕行 1988 同一性と親密性の危機の解決における性差—自我同一性地位の Rasmussen の EIS による併存的妥当の検討—. 教育心理学研究, 36, 210-219.
- 鎌幹八郎・山本力・宮下一博(編) 1984 自我同一性研究の展望. ナカニシヤ出版.
- Thorbecke, W. & Grotevant, H. D. 1982 Gender differences in adolescent interpersonal identity formation. *Journal of Youth and Adolescence*, 11, 479-492.
- 辻井正次 1989 自我同一性尺度作成の試み. 昭和63度名古屋大学大学院教育学研究科修士論文(未公開).
- 恒吉徹三・前田重治 1990 大学生の性別同一性に関する研究—自我理想との関係をめぐって—. 九州大学教育学部紀要(教育心理学部門), 35, 165-174.

付表—1 E I S の項目内容

自己の一貫性	目標指向性
1・時々、自分のことがわからなくなる。(→)	1・私にとって問題なのは、自分が本当にどうなり たいかがわからない点だ。(→)
2・私はある人のようでいようとしたかと思うと、 また、別の人のようでいようとしている。(→)	2・自分の将来(職業)については、自分の選んだ 道を歩もうとしている。
3・自分の身体が自分のものではないみたいに感じる。 (→)	3・自分の進む道は、常に誰かに決められてきたの で、本当に進みたい道は何かわからない。(→)
4・自分の身体が、誰か他人の意志で動かされてい るような気になることがある。(→)	4・私は人生をどのように生きたいかを自分で決め られない。(→)
5・自分の身体が変化していくことに、とまどいを おぼえる。(→)	5・自分が今、何を望み、しようとしているかを知っ ている。
6・他人の期待にあわせてばかりいるなど、自分の 身体がバラバラになるような気がする。(→)	6・現在、自分の目標をなしとげるために努力して いる。
7・私には理想の自分がいくつもあり、どれが本当 になりたい自分なのかわからない。(→)	7・自分が目標からどんどん離れていっているとい う気がする。(→)
8・自分の心に大きな変化がおこり、自分が変わっ てしまったように思うことがある。(→)	8・自分の将来つくべき仕事(職業)について、ずっ と考えてきたものがある。
9・高校時代の自分と現在の自分は全く別の人間だ もよく感じる。(→)	9・自分がどういう仕事(職業)ならつけるのか、 自分にはわからない。(→)
10・他人と話していると、自分がわからなくなっ てくる。(→)	10・自分の夢を実現しようと意欲に燃えている。
11・周囲の環境や状況によって、自己評価がころこ ろ変わってしまう。(→)	11・本当に自分のやりたいことは何なのか。まだ見 つけることができない。(→)
12・周囲のいろいろなことが変化してしまうので 時々、自分を見失ってしまう。(→)	12・自分のやりたいことが大学生活のなかで見つけ られつつある。
13・自分のことを明るいと感じたり、暗いと感じた りする。(→)	13・自分の夢はたくさんあるが、どれも実現できそ うには思えなくなってきた。(→)
14・みんなが、いろいろなことを私に要求するので、 どれに従えばいいのか、わからなくなる。(→)	14・今まで大学に入ることなどの具体的な目標しか なかったので、将来の目標ははっきりしない。 (→)
15・他人は自分に親切かと思えば、悪意を持ってい るようでもあり、結局のところ信用できない。 (→)	15・何も興味が持てないので、自分が何を学びたい のかわからない。(→)
16・他人のちょっとした言葉でも、すぐに自分がだ めになったように感じてしまう。(→)	16・その時その時の目標はあっても、自分がどこへ 向かっているのかわからない。(→)
17・今の自分は仮りものであって、本当の自分とは 違うと感じている。(→)	
18・私は感情の起伏が激しい。(→)	

付表－1（続き）

自己肯定感	独自性
1・今の自分が完璧だと思わないが、それでも今の自分が好きだ。	1・反対意見がある時には、いつも自分の主張をしりぞける。
2・みんなのなかで自分の役割がうけいれられ、認められているという感じがある。	2・他人の考えには、とらわれず、自分の考え通りにしている。
3・私は自分が信頼できるという感じをいつも持っている。	3・何かやりたい時には、他人に頼らず、自分の判断で決めるようにしている。
4・自分が本当につらい時に話したり、励ましてくれるような友人がいる。	4・他人の指図どおりに、期待されていることをしてきた。(+)
5・「これが本当の私だ」と感じられるような充実した体験がある。	5・やってみたいことでも、他人から、やる価値がないと言われるとやめてしまう。(+)
6・自分の良いところも、ありのままに認められる。	6・親や友人が私にむいていると考える仕事(職業)につけば、一番安心だと思う。
7・私は現在の自分は幸福だと思う。	7・他人から意見を言われると、自分の意見はとるに足らないもののように感じてしまう。(+)
8・家族と一緒にいると、心からおちつける。	8・友人とは、意見がくいちがって言い争うことがあっても、自己主張することができる。
9・自分には欠点もあるが、それなりに良いところもたくさんあると思う。	9・「変わっている」と思われたくないので、なるべく周囲の言う通りにしようと思う。(+)
10・私は本当に自分のことをわかってくれる友人を持てて幸せだと思う。	10・いつも周囲を見回して、他人と同じであることを確認する。(+)
11・心と身体が一体になって、充実していると感じられることがある。	11・自分だけの夢を追うより、みんなと同じようにやっていこうと思う。(+)
12・私は困難な課題に対しても、くじけることなくやっていく自信をもっている。	